義務教育学校の整備に関する町民説明会(質疑応答)

令和7年2月28日(金)に開催しました「義務教育学校の整備に関する町民説明会」におけるご意見・ご質問を纏めましたので、次のとおり掲載します。

No.	ご意見・ご質問	回答
1	<p>資料を読みましたが、美幌小学校を改築して小中一貫へという候補が上がっており、多大な費用がかかります。</p> <p>小学校3校を美幌小学校へ、中学校2校を北中学校へ、という集まり方が費用は安いのではないのでしょうか。その様な予定は全くないのでしょうか。</p>	<p>多大な費用がかかるという質問については、整備方針内の参考として増築改修費について60～82億円という試算を示しています。改修の内容によって変わる事もありますが、改修費の概ね半分は国からの補助金を利用する事ができます。</p> <p>さらに改修費の残り半分には借金（地方債）を活用する事になりますが、国が借金の半分近くを負担してくれる有利な地方債を活用する事により町の持ち出しはかかる改修費の35%程度になると試算しています。改修費については、既存の美幌小学校を最大限に活用しながら最小限に抑える考えであります。</p> <p>また、現在の小学校3校を美幌小学校へ、中学校2校を北中学校へ移転した方が安いというご質問ですが、開校時と比べて特別教室が増えている状況にあるため、どちらもそのまま移転させると教室が足りないため、いずれにしても改修が必要となります。</p> <p>施設一体型を進める理由としては、事業費や教室数が足りないという問題もありますが、美幌の子どもたちに義務教育9年間を見据えて切れ目のない教育の推進とこれからの社会を生き抜くための資質能力を育成する事にあります。</p> <p>そのためにも一人の校長の下、小学校と中学校が一つの組織となることにより、単に5校が1校になるのではなく、発展的な新しい学校を創る必要があり、小1、中1の最適化から始めるのではなく、スピード感を持って施設一体型の義務教育学校1校を進める考えであります。</p>
2	<p>① 義務教育学校の方針は国の指導を受けて策定しているのでしょうか。</p> <p>町独自の考えによって辿り着いたものなのでしょうか。国の方針に従って一貫校にするものではないのでしょうか。</p> <p>② 事業費を補助金と交付金で35%賄い、一般財源は28億円ということで住民税を越えるような多額の資金が町の持ち出しとなるのではないのでしょうか。</p> <p>③ 昨年4月の広報紙で義務教育学校の取組みについて表明していますが、昨年の開催されていた町総合計画の審議会では、義務教育学校の話は一言もありませんでした。</p> <p>新築で120億の事業費がかかる事案について、総合計画では一切なく、唐突に話が出てきて不満に思います。</p>	<p>① 令和3年1月に国の中央教育審議会において令和の日本型学校教育について示され、そのなかで人口動態を踏まえた学校施設の在り方等の見直し、その一つとして義務教育学校の活用と小中一貫教育を推進する記述があり、今後はそのような流れになっていくと思われれます。</p> <p>道内において、義務教育学校の数は今年度27校、昨年度は24校、一昨年度19校と毎年増え続けています。管内の他の自治体においても義務教育学校を検討していると伺っています。決して国の指示等ではないものの子どもたちが減り続けるなかで、道内外12校の先進校の視察を行ってきましたが、メリットの方が多く感じており、子どもファーストで取り組んできているので、ご理解を頂きたいと思えます。</p> <p>② 先ほど60億円から82億円とご説明しましたが、今の試算であり、今後基本構想等で美幌小学校を具体的に最大限活用した際に、どの程度増築となるか試算していく形になります。</p> <p>そのなかで、一般財源については24億円と説明しましたが、現在5校の維持管理経費に年間3億円程度かかっており、これを1校にして1/5になるわけではありませんが、少なくとも年間2億円程度は縮減できるのではないかと考えています。</p> <p>また、現在の5校を引続き維持していく場合、長寿命化をしていくこととなりますが、これから建築や機械・電気設備などは更新の時期を迎えてきます。そのなかにも補助金等の活用はあるものの長寿命化計画内では51億円程度かかると試算しています。そのようなことを比較したうえで、義務教育学校の整備へ踏み切っています。</p> <p>当然、町の様々な公共施設があるなかで町の財政状況もあり議会等でも議論されています。今後も3か月に一度説明会などで情報発信をしていきたいと考えていますが、3月若しくは4月に義務教育学校も入れてなかで財政運営計画について再試算すると聞いているため、町全体としてどうのようになるか今後示していきたいと考えています。</p> <p>③ 総合計画について持ち合わせていないため確かなことは言えませんが、町の最上位計画である総合計画には、子どもたちが減り続けているなかで学校の最適化として進めていかなければならないと記載させて頂いているなかで、その流れのなか昨年3月議会で矢萩教育長より令和13年度を目安に義務教育学校を整備すると表明しています。</p>

3	<p>① 切れ目のないという話でしたが、いじめに対しても切れ目がない9年間になってしまうのではないのでしょうか。現状、学校でもあると聞いています。そのことは全然話がなかったので、教育委員会でその点を分かっているのでしょうか。今後、9年間同じ学校となった際にどのような取り組みをしていくのか知りたいです。途中から学校を移ったという話も聞いているので、それができなくなってしまうと思います。</p> <p>② 残った学校を解体するということでしたが、例えば旭小学校の体育館だけを残し、全面芝生にするなど冬場でもスポーツができる施設につくりかえるなど、残った建物にどういったことをしていきたいということを知りたいです。</p> <p>③ 教育委員会だけで話が進んでいるように感じます。スポーツ担当と話し合ったりして有効活用をしていくなど、突発的に教育委員会だけで進んでいくのではなく、もう少し役場全体で協議していきもらいたいです。</p>	<p>① 切れ目のないということは1年～9年生までの9年間となりますが、義務教育学校は小中で分かれているわけではないため、教員間での情報や方針などを共有し切れ目なく指導していただけます。いじめが発生したときにということですが、義務教育学校を整備し、9年間を見通した継続的・系統的な指導となるなかで、今起こっているようないじめがないように、どのように防ぐか、どのようにしたら少なくなるかなどと考えた際、教員間の協力や方針の一致、細かな情報まで収集し、正しく判断して指導を行うなど、様々なことが必要になると考えられ、9年間見通した取り組みは未然防止や初期対応などをしっかりやることに繋がっていきます。実際にいじめが起こった際に転校する場所がないとなるのは、その通りですが、そうならないようにしていきたいと考えています。</p> <p>② 跡地利用については、様々なところから意見を寄せられておりますが、4校については、解体も活用も視野に入れています。また、指定避難所にもなっており、過去に大雨や大雪が降った際などに体育館を避難所にした経過もあるため、簡単に解体することにもならないと考えています。また、体育館に芝生を整備して活用するなど基本構想のなかで、しっかりと検討していきます。</p> <p>③ 教育委員会内にスポーツ振興や社会教育もあり、当然教育委員会だけに限らず全体で検討を進めています。例えば、全国的ではあるが跡地利用に福祉施設や工場などに利用しているケースもあるので、4校をどのようにしていくのかは全庁をあげて考え、場合によっては町民にもご意見を伺いながら、進めていく案件だと認識しています。既に部局長会議でも議題として取り上げています。</p>
4	<p>新築は122億円、増築・改修は60～82億円とありますが、美小を改築したとして他にも必要な施設やスクールバス、駐車場や給食センターなどがあると思います、全てを含めた金額なのでしょう。</p>	<p>義務教育学校を整備を第一優先としており、給食センターの移転は入っておりませんが、そう遠くないなかで給食センターも合築したいと考えています。それ以外は事業費に含まれています。</p>
5	<p>① インクルーシブ教育を目指すとのことでしたが、インクルーシブ教育はこの国で本当に取り組んでいるところは少ないなか、どのようなインクルーシブ教育を考えているのでしょうか。</p> <p>それとともに、実施するのであれば関わる大人がかなり環境を整えていかなければ難しいので、それを建設する何年かの間はどう作っていくのでしょうか。教員の皆さんはとても忙しいなかに加えて新しい小中一貫校を作る色々な会議があるなか、そのなかでその学びをする時間を作ることがどれだけ教員の負担になるのか、しかし、そうしなければインクルーシブ教育は言葉だけになってしまうと思います。無理矢理に凸凹や特性のあるお子さんを普通学級にいれることが、どれだけ辛い思いをさせるのか、どれだけ危ないことか、ご存じだと思うので、どのようにイメージをしているのでしょうか。もし、実施するとなると部会でどのようなことを考えているのでしょうか。</p> <p>インクルーシブ教育を進めていくとすると、言葉の教室の役割が大きくなると思われませんが、現在小学校のみとなっている言葉の教室を、今後中学校にも作っていく予定はあるのでしょうか。</p> <p>② 学童保育について、今後児童生徒は減っていくものの、働く親はどんどん増えていく状況が考えられます。それに伴い、恐らく学童保育の利用する割合は増加していくと思うので、そのような想定を考えていった方がよいと思います。100人くらい若しくはそれを越える数になった場合、現状町内は学校施設を利用しているため、義務教育学校でも学童保育をしっかりと考えていかなければならないので、その辺の考え方をお聞きできますでしょうか。</p> <p>③ 不登校の対応については、小中一貫校になり切れ目のない指導で少なくなるという話でしたが、不登校の理由は多種多様であって、それだけで減るものではないのではないかと思います。美幌町の不登校の理由を把握されているなかで、どのようなことがあるのでしょうか。</p> <p>それを把握されている理由のなかで、結果として小中一貫校で減るという判断なのでしょう。</p>	<p>① インクルーシブ教育については、難しいものであると理解はしています。</p> <p>世界的な流れを見るとインクルーシブ教育は推進されているものの、日本の教育では特別支援学級で行う授業時数は半分以上となっていることから、矛盾しているところもあります。</p> <p>本来インクルーシブ教育であれば、通常教室にいて慣れ親しんでいくという考え方である一方で、それが認められてはいないなかでも多様性をしっかりと身につけさせたり、色々な考え方があることなどを身につけさせたりしていかなければならないと考えています。</p> <p>従って、交流学級への時数を多くするだけでなく、縦割り指導を行うことで上級生のなかに入り一緒に活動する、異学年との子どもたちと合同の行事をするなどに取り組んでいくなかで、インクルーシブ教育を推進できればと考えています。</p> <p>ただ、インクルーシブ教育を行う根本には、その子たちの自己肯定感が高まり、十分な成果があることなども求められているため、そのようなことをどのように作っていくのか、9年間を見通したなかでどのような場面で行えるのか、今後開校準備委員会の特別支援部会のなかで現場の教員からの意見を十分に聞きながら、具体的な中身やカリキュラムなどを検討していきます。</p> <p>中学校の通級指導については、管内では北見市内など少数でしか実施されていませんが、9年間切れ目のないということで、今後の推移も見ながら可能な限り考えていきたいと思っています。</p> <p>② 学童保育については、ご意見のとおり共働きなどで留守番する子が多くなるとは間違いのないと思っており、その辺は推計も行っています。義務教育学校を整備の際、学童保育については、小学校6年生まで入る形で計画しています。</p> <p>③ 不登校の理由は様々なものとなっておりますが、嫌なおもいや暴力などもあるほか、インターネットやSNS上で誹謗中傷を受けたなど、色々な要因が考えられます。そのほかにも、家庭の事情、学力などなかなか特定できないところが、現状として数多くあります。不登校をゼロとすることが一番望ましいですが、それをゼロにするのはなかなか難しいものとなります。しかし、不登校等の児童生徒へ対応するため校内に支援センターの教室を作る学校が増えてきており、義務教育学校でも設置することを考えています。それから、学校に来ることのできない児童生徒には、例えばインターネットを使いメタバースによる交流やオンラインで授業を配信するなど可能な時代になってきています。学校に来られる子、来られない子、教室に入れない子など様々な状況はありますが、個に対応していきたいと考えています。</p>

6	<p>現在小学校は3校あり、普通学級と特別支援学級に分かれて、各々学校生活を送っています。今現在の人数だから教員が見守れている環境もあるのではないかと保護者目線で見っていますが、それが一つの建物になることで環境として良くなっていくのでしょうか。一か所に纏まったから解決に繋がっていくと思っている期待もあると思いますが、今現在分担しているから見守れているところもあるのではないのでしょうか。</p>	<p>特別支援学級は児童生徒8名で1名の教員が配置されるという制度になっています。</p> <p>現在小学校3校ありますが各学校に40名の支援学級の児童生徒がいるとなると5名配置されることとなり、それが義務教育学校で120名となっても8名に一人教員が配置されることとなります。当然その分だけ教室を必要となります。児童生徒の数が多くなることで、支援教室の児童が多くなり教員がすごく大変になるのではなく、いまと同じ環境で指導ができます。また、学級が増えることで交流も増え、今までできなかった体験ができるようになるなど、利点も考えられます。義務教育学校になって児童生徒数も増加しますが、その分だけ教員数も増加するため、今の環境と大きく変わりはないものとなります。</p>
7	<p>個に対応するとのなると、大人の数が必要になってくると思います。今のままだと数は変わらず課題解決に結びつかないと思います。</p>	<p>義務教育学校になることで教員数が1.5倍などの配置になるようなく、国の決まった定数の配置となります。しかし、例えば、副校長の配置や主幹教諭が配置される、英語教育をする際に中学校の教員を一名多くして、小学校の授業をみるなど、加配措置を検討することができます。また、教員にとって忙しくはなりますが、乗り入れ授業もできるほか、低学年でも算数を得意な教員、国語の得意な教員がいると、国語が得意な教員が一組と二組をみるなども可能となり、算数も同様で、それは教員の負担軽減に繋がることも考えられます。</p> <p>学年についても6-3制ではなく、4-3-2という組み方もでき、その3については小5・6・中1となりますが、例えば小学校高学年の専科として理科や音楽の教員を配置することや、中学校の教員が入り教えるなどもできます。</p> <p>さらに少人数学級を申請した際に数学で基礎コースと発展コースという分けでやりますといった場合、教員の一名加配措置があります。加配申請が通るかなど課題はありますが、可能な限り増員した体制を組んで、得意分野をいかしながら指導ができると考えています。</p> <p>また、小学校で担任が全教科を教えるのではなく、苦手な教科を別な教員が担当し、得意な教科を担当することも考えられます。中学校も同様で専科以外の総合的な学習や道徳などもあることから、創意工夫により教員の負担軽減に図り、個の対応に繋げていくこともできると考えています。</p>
8	<p>各小学校の運動会に見学へ行きましたが、美幌小学校は3部制・東陽小学校は2部制・旭小学校は全学年合同で行われていました。色が違う学校が統合する際に、文武両道などを考えると、美幌小は文に重きをおいていると個人的に思っています。小中それぞれ違う学校を統合するときに、算数数学でエキスパークラスを作るなどの話がありましたが、学校施設でアリーナなどを作るなど大掛かりになると思います。スポーツなどにも力を入れるなど、どのような学校を考えているのでしょうか。</p>	<p>運動会などの行事について、現在各学校では異なります。また小学校は学級担任、中学校は教科担任で、もちろん校務分掌なども異なります。それらについては、対話のなかで合意形成を図っていくこととなりますが、開校準備委員会に行事部会を作っているため、そこで検討していくこととなります。また、学校運営協議会部会を作っており、学校の教員以外に地域の方やPTAに入ってもらって協議することとなります。どのような話になり、運動会が美幌小方式、東陽小方式となるのかなどは言えませんが、全体で協力して進めていくこととなります。</p> <p>義務教育学校については、これからの複雑な社会、人生100年時代のなかで自分の力で生き抜く力をつけたいというのが一番にあり、自分で判断して行動でき、色々な人の多様性を認めて尊重しあうなどの資質能力が必要となります。それをビジョンのなかで示しているのです。そちらの資料からご確認をお願いできればと思います。</p>